

水道一口メモ

●水道のしくみをご存知ですか？
 私たちは給水装置によって水を使っています。給水装置とは、道路の下にある水道本管から分かれて家庭内に引き込んだ給水管、水止め栓、水道メーター、給水栓（蛇口）などの設備や器具を総称していいです。この給水装置は、各家庭の負担によって設置するもので、みなさん（個人）の所有物です。ですから、改造したり修理する場合もみなさんの負担となります。

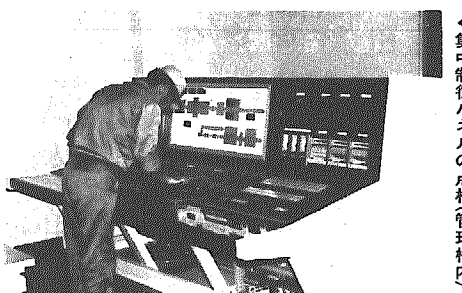
●ああ、水が止まらない！
 給水装置のしくみを知っていればあわてることはありません。まず、水止め栓をまわして水を止めましょう。そのうえで故障の内容を点検し、岩室村指定工事店へ修理を依頼しましょう。なお、蛇口の「こまバッキン」の取り替えなどの簡単な修理は家庭でできます。

千平方メートルの敷地に、鉄筋二階建ての管理棟をはじめ、急速ろ過施設、沈殿施設、配水池施設、倉庫予定地などが緑地に囲まれスマートな配置で造られています。また、施設面では、省エネ効果も採用——近くの西川から取水した水を沈殿池に引き込み、夏井山の落差のある地形を利用して、ろ過施設などに流し込む方法を採用し、「省エネ」の工夫も行っています。

この完成により、一日の最大給水能力は、現浄水場の一・六倍の七千七百トになり、岩室村域約一万二千人を将来計画に想定、給水することになります。

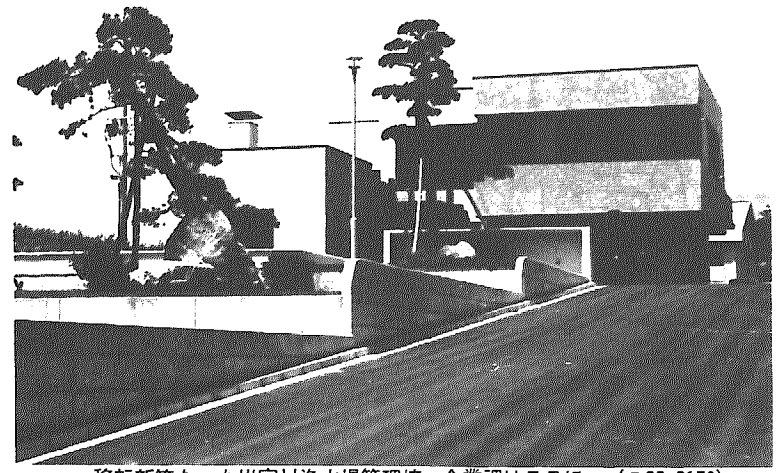
これで、現在、夏場のピーク時（一日最高使用量五千九百ト）の水不足も完全に解消されます。

しかし、いくら能力アップされた新浄水場が出来上がったとしても、水を大切にすることが出来ていないと、毎日生活の中で水を大事に使う心を忘れないでください。



◀集中制御パネルの点検(管理棟内)

水道は飲み水をはじめ、料理、洗濯、ふろなど私たちの日常生活になくはないものです。そのうえ、学校や病院、会社や工場などあらゆる場所で毎日使われ、社会生活や産業活動の原動力にもなっています。そして、私たちの生活が豊かになればなるほど、文化が進めば進むほど水道の必要度は増してきました。この増え続ける水需要に対応するため、約10億円を投入し、昭和58年から3年をかけ建設してきました岩室村新浄水場（夏井地内）がいよいよ完成——今月上旬から送水を開始、6日には施設の竣工式が行われます。



移転新築なった岩室村浄水場管理棟。企業課はここに… (☎82-3150)

7月6日竣工式

水不足も解消…

きれいな水をつくるために

夏井浄水場完成

現浄水場は、昭和四十七年、吉田町浄水場の施設と用地四千三百六十三平方メートルを、併せて一億一千百万円で吉田町から買収したもので、その後何回か補修増強して使用してきました。

しかし、村勢の伸展に伴い、人口、世帯が増え、一日最大使用量の五千八百トから五千九百トに増加しています。

これによると、とても今までの施設では、将来、水道用水を安定して供給できなくなってしまう。

新浄水場は、弥彦村との境界に近い夏井・稲干場地内に昭和五十八年度から三カ年継続事業で建設を進めてきました。着工以来、三年の歳月をかけた工事でも、六月中旬に浄水場施設が完成。六月下旬からは、水質検査や導入機器の試験、調査などが繰り返されています。

そして、今からは新浄水場からの給水が開始され、一日六千トの水が水道用水として使われるようになります。

完成した新浄水場は、一万二

現在の岩室村吉田浄水場の一日最大給水量は、五千九百トです。右のグラフは昭和五十年から六十五年までの一日最大給水量と、今後の予想を示したものです。

期待を担って完成した新浄水場

新浄水場は、弥彦村との境界に近い夏井・稲干場地内に昭和五十八年度から三カ年継続事業で建設を進めてきました。着工以来、三年の歳月をかけた工事でも、六月中旬に浄水場施設が完成。六月下旬からは、水質検査や導入機器の試験、調査などが繰り返されています。

そして、今からは新浄水場からの給水が開始され、一日六千トの水が水道用水として使われるようになります。

完成した新浄水場は、一万二

